

7 書写・書教育「楽しいから始まる」 報告者：苫小牧西高校分会 磯角 広一

1 今年度の分科会について

今年度は昨年度同様に会場とオンラインのハイブリッドで実施した。会場3名、オンライン2名の参加であった。オンライン参加者は、2名とも遠方からの参加だったので、オンラインのメリットが発揮された反面、作品をカメラ越しに見ることになるので、オンライン参加者の要望に叶った配信になったかどうか不安ではある。また、会場のうち1名は新任教員の参加であった。

2 「根室高校6年間において、書道の授業での葛藤」根室高校 林 千鶴

新任で赴任した根室高校で、6年間の授業実践を通しての課題とこれからの授業の展望を報告する内容のレポートであった。日々多忙の中で生徒のことを考え、実践してきたことはたいへん参考になるものであった。昨今高校の現場ではICT機器の導入と、それを活かした授業が求められているが、臨書課題の用筆法についての説明を、生徒に動画を撮らせている実践が報告された。内容理解を深めるため、その内容を他の生徒に説明させるというのは有効な方法であるが、これを動画に残すという実践は参考になった。

また、林さんは自称「教えたがり」ということで、生徒に教えすぎてしまい考える機会を奪っているとの今後の課題についても報告してくれたが、今後の授業実践でこの課題をいかに乗り越えていくか楽しみである。

3 「12年目のもやもや」苫小牧西高校 磯角 広一

今年度は、昨年度からとりいれている「学び合い」の手法を活用した授業実践の報告を行った。生徒の自主性を育むため、生徒相互の援助が出来るように生徒の立ち歩きを認め取り組みをすすめている。技術的なことを出来る生徒が、出来ない生徒を援助することで生徒同士の結びつきを強め、他を教えることでその生徒の学習した内容の確認と出来ない生徒が出来ないことを出来るようになることがねらいである。実践してはいるが、大きな成果は感じられていない。いろいろ出来ていないことが多いので、今後も報告したい。

4 「生涯学習推進員5年目の活動報告」音更町生涯学習推進員 野坂 武秀

内容は、長年この分科会で培ってきた経験や知恵を活かした小学校での授業実践報告で、今年度は小学校教員をされている寒川さんがオンライン参加していたので、カメラの前で実演しながらの報告となった。

野坂さんの実践が、今回の分科会をきっかけに多くの書写で困っている教員たちの救いになることを期待したい。また、寒川さんが実際の授業でどうされたのか、うまくいったことそうでなかったことなど来年度報告していただけるとたいへんありがたい。

5 新たな参加者から

小学校で勤務されている寒川さんは、免許を取るために大学の書道授業で学んだものの、実際の授業では直接役立つものではなく他の教員が取り組んでいる内容を参考に、現在書写に取り組んでいるが、その内容に疑問を持っていたとのことであった。今回この分科会

に参加することで新たな発見があったとのことで、たいへん嬉しく感じられた。

また、現地分科会参加者で高校教員石上さんは、勤務校で新カリキュラムの中で新たに開設する予定の授業の内容・計画について困っているとのことであった。この分科会での報告や話し合われた内容などが、石上さんの一助になると嬉しい。

4 まとめ

今年度は「楽しい」が学びの原動力になることを再確認できた研究会となった。多くの子どもたちは「できる喜び」を知って、さらに困難な課題に挑戦したくなるのだから、できる限り書写段階で「できる喜び」を知って欲しい。

また、小学生は優秀な学び手であるのだから、その優秀な学び手を勉強嫌いに仕立てないで、優秀な学び手から優秀な挑戦者にしていくことが教員のつとめであろうと思う。

そういうことができるようになるためには、このような研究会や学習会に参加して学ぶことが必要である。今以上に多くの教員が組合員となり、子どもたちのため自分たちの未来のために学んで欲しいと心から願っている。